SciREX 事業 第Ⅱ期中間評価にあたっての基本的な考え方について（案）

令和２年９月

文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課政策科学推進室

評価の背景

SciREX 事業は、平成 23 年に最長 15 年の事業として開始し、「SciREX 事業基本方針（以下、「基本方針」という。）に基づき、およそ 5 年に一度の評価を行うことになっている。第Ⅱ期中間評価は、各拠点・関係機関についての外部評価を、令和 3 年度上半期までに終了させる。それらの評価結果をアドバイザリー委員会にて報告し、その後の SciREX 事業の進め方についての助言を得ることとする。

令和２年度に実施予定の、事業の成果のとりまとめ、10 周年記念イベント、フォローアップ調査の結果等も評価に含めるものとする。

評価の目的

本事業の目標の達成に向けた状況やマネジメントの状況を把握し、事業運営の改善、補助金等の適正配分、さらに、第Ⅲ期における事業展開の戦略、第Ⅲ期以降の各プログラムの持続的な発展や自立に向けた道筋への示唆を得ることを目的とする。

実施方法（評価対象・評価方法・評価者等）

（　資料「SciREX 事業 第Ⅱ期中間評価の実施方法について」参照）

○　評価全体の設計を検討するにあたっては、外部評価において有効な助言・指摘を得るためにも、質の高い自己評価が基本であることを改めて確認する。外部評価は、自己評価が適切に行われているかという観点から実施する。

○　事業全体の評価は、以下の 3 つの外部評価を実施するとともに、文部科学省は評価結果をアドバイザリー委員会に報告し、助言を得ることとする。

○　各拠点大学の評価については、各拠点大学における自己評価を実施し（今年度中）、文部科学省において設置する拠点等中間評価委員会にて外部評価を行う（来年度上期・はじめ）。

- SciREX センターは、ネットワーキング、共進化、人材育成、研究成果・基盤をとりまとめる機能を一括して評価することが適切であるため、運営委員会、GRIPS の総合拠点としての取組み、CRDS との連携、文部科学省の取組と合わせて評価を行う。
- 旧・重点課題に基づく個々の研究プロジェクトや、共進化実現プロジェクトの評価は、各拠

点における評価と併せて行う。また、旧重点、共進化実現プロジェクトともに、プログラム全体としての評価は、共進化や研究成果・基盤をとりまとめる機能として SciREX センター等の評価に含める。

○ データ情報基盤整備、公募型研究開発プログラムについては、NISTEP、RISTEX において自己評価を実施し、それら基に、各機関において設置した委員会にて外部評価を受ける。（今年度中）

評価項目

SciREX 事業ロジックモデル（資料　「基本方針」に基づく事業全体の俯瞰図）を踏まえ、人材育成、研究成果・基盤、ネットワークキング、共進化を「主要 4 取組」とし、第Ⅲ期以降の持続的な発展や自立に向けた道筋を見極める視点を重視し、以下について評価を行う。

（１）事業全体としての必要性

（２）運営・活動状況

（３）目的達成に向けた成果の創出状況や見込み　等

（詳細は、資料「第Ⅱ期中間評価における評価項目・視点（案）」）

評価プロセス（スケジュール）【P】

令和２年　　９月　アドバイザリー委員会（評価の方針、評価の項目・視点の提示等）

～12 月　拠点等評価委員の人選

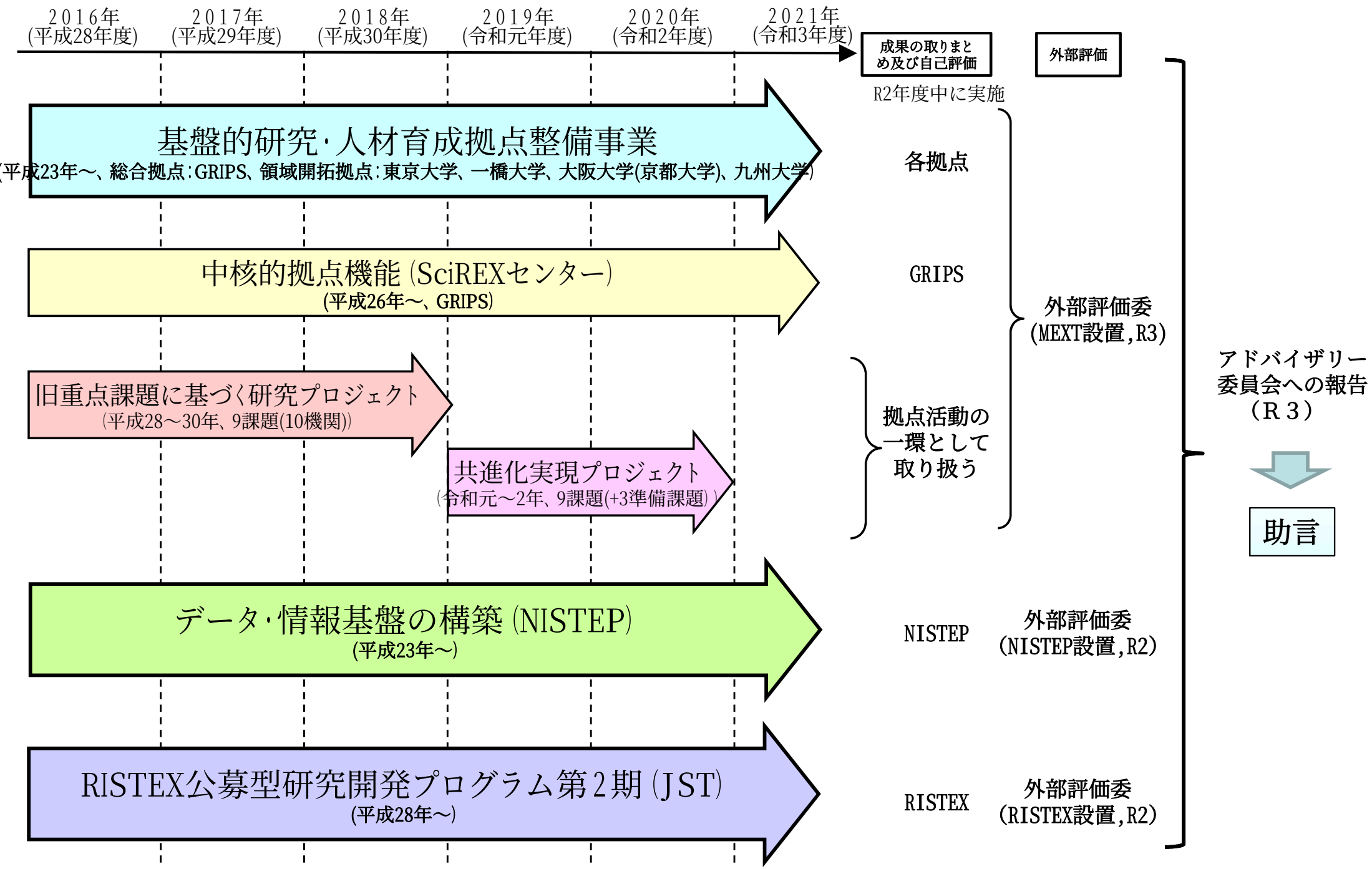
２月頃　アドバイザリー委員会（旧重点化・共進化フォローアップへの助言）

～3 月頃　各拠点自己評価、NISTEP、RISTEX の外部評価

令和３年　4～６月　拠点等評価委員会（報告書査読、GRIPS ヒアリング、報告書作成）

７～９月　アドバイザリー委員会（各外部評価の報告聴取、助言とりまとめ）

SciREX事業 第Ⅱ期中間評価の実施方法について



SciREX事業　ロジックモデル　（基本方針に基づく事業全体の俯瞰図）

現状認識と課題

複雑かつ多様な社会的課題が顕在化し、科学技術イノベーションに期待が高まる一方、客観的根拠（エビデンス）に基づく合理的な政策形成が発展途上。

科学技術イノベーション分野においては、政策の経済や社会への影響を客観的・定量的に示す学術的な知見が限定的。

当該分野（政策のための科学）にかかわる研究者及びこれらをつなぐことのできる人材のコミュニティ、及びキャリアパスが発達途上。

当該分野にかかわる研究者と政策担当者の間の対話、連携が定着していない。

客観的根拠の基盤となるデータ・情報が体系的かつ継続的に蓄積されていない。

定常的活動 (R1)

事業全体のガバナンス

SciREX全体の俯瞰・構造化（CRDS）
(JST運営費交付金の内数)

事業全体の設計・執行（MEXT）
・全体総括
・予算要求
・有識者委員会　等
36百万円

拠点形成事業

中核的拠点機能（SciREXセンター）
・各拠点の取りまとめ
・重点課題PJ総括
・知見の集約
・広報
・セミナーの開催 等
112百万円

基盤的研究・人材育成（５拠点６大学）
・基盤的研究
・教育プログラム
・サマーキャンプの開催 等
354百万円

公募型研究開発プログラム（RISTEX）

・募集選考
・PJ推進　等
（JST運営費交付金の内数）

データ・情報基盤の構築（NISTEP）

69百万円

アウトプット

アウトリーチ

・ポータルサイト運営(H30アクセス19,159)
・Webマガジン(H30に2号)
・コアコンテンツの一般公開(R1)　等

ネットワーキング

・拠点形成(5拠点6大学)
・SciREXセミナー開催(H30まで計28回)
・シンポジウムの開催（年1回程度）　等

研究

・公募型研究開発プログラム（H30までに31件採択）
・重点課題に基づくPJ（H28-H30：9件）
・共進化実現PJ（R1-R2：9件）　等

人材育成

・各拠点における教育プログラムの開講（累積223名修了）
・拠点学生を対象としたサマーキャンプの開催
・文科省職員を対象とした研修の実施（年1～2回）
等

データ・情報基盤

・大学・公的機関名辞書等のテーブルの公開
等

※予算額は令和元年度当初予算

アウトカム

短期

ネットワーキング活動を通した関係者間の交流の活性化
イベントの参加人数

政策担当者、研究者の対話の機会の拡大
政策リエゾンの人数

プログラム修了生・指導経験のある若手教員等の増加
修了生数、のべ教員数

体系的な教育コンテンツの開発・改良
コアコンテンツの閲覧数

基盤的研究の活性化、知見の創出
論文,学会発表等の数

基盤的データ及び分析テーブルの公開・整備
アクセス数，DL数

赤字：指標例

公開したデータ及び分析テーブルを活用した研究の増加

共進化

官-学 共創型研究・活動の事例の増加

共進化のGood practiceの創出、取り組みの広がり

R1-R2:文科省職員と拠点研究者による共進化実現PJフォローアップ

人材育成

当該分野を経て活躍する人材の増加、キャリアパスの明確化

持続的な人材育成とキャリアパスの定着

R2:過去に関わった人材の追跡及びキャリアパスの共有の取組

研究・基盤

データや研究成果・知見の集約・蓄積・構造化

R1:研究成果の調査委託
R2:CRDS俯瞰構造化

ネットワーキング

ネットワーク構築とコミュニティの拡大

R2:10周年記念シンポジウム

緑枠：達成状況の確認に向けた取組

長期

政策形成プロセスの進化

政策担当者と研究者との継続的な対話・協働

学際的学問分野「政策のための科学」の発展

ビジョン

客観的根拠に基づく政策形成の実現

複雑・多様な社会課題解決に科学技術イノベーション政策が貢献

限られた資源の下で効率的に科学技術イノベーション政策が展開

事業の経過と展望（主要事項）

第Ⅰ期（H23-H27）
・基盤的研究・人材育成拠点の立ち上げ
・中核的拠点機能の整備開始

中間評価

第Ⅱ期（H28-R2）
・研究成果の取りまとめ、糾合
・関係機関の連携の強化
・共創型研究推進のスキームの開発

中間評価

第Ⅲ期（R3-R7）
・拠点活動の継続性の検討
・共創型研究・活動の拡大、既存の政策プロセスとの設置点の検討
・人材育成の成果の可視化、コミュニティへの巻き込み

第Ⅱ期中間評価における評価項目・視点（案）

SciREX 事業ロジックモデル（資料③「基本方針」に基づく事業全体の俯瞰図）を踏まえ、人材育成、研究成果・基盤、ネットワークキング、共進化を「主要 4 取組」とし、以下の項目・視点にて評価を実施する。

1．事業全体としての必要性

・ 発足から 10 年（前回中間評価から 5 年）が経過した現在においても、事業の目指すビジョンや目標設定は妥当か。
・ 補助金等終了時のビジョンは明確か。
・ 第Ⅲ期における戦略は、補助金等の終了時の目標達成や、補助金等終了後の自立化に向けた各種努力を踏まえて、妥当か。

2．各拠点／SciREX センター／データ・情報基盤の構築／公募型研究開発プログラムの運営・活動状況

・ 「主要 4 取組」について、目標達成に向けて、妥当な／効率的な運営・活動がなされているか。
  - 基本方針等を踏まえたものであるか。
  - 補助金等終了後を見据え計画的に自立化に向けた努力がなれているか。
  - 補助金等終了後を見据え、他の関係機関や文部科学省と積極的に連携・協力関係の構築を行っているか。
  - 中長期目標・計画を踏まえた事業展開がなされているか。
  - 第 1 期中間評価における指摘事項に対して、妥当な対応がなされているか。
・ 様々な取組（人材育成、研究・基盤、共進化、ネットワーク、中核機能、拠点間連携等）補助金終了後の展開を見据えた活動などが有機的に位置付けられ、効率的に取り組まれているか。（SciREX センター必須、他推奨）
・ 事業全体のとりまとめについて、妥当な運営・活動がなされているか。（SciREX センター）
・ 活動中に課題点や困難を把握できているか。それらを乗り越える方策は妥当か。（SciREX センター必須、他推奨）

3．各拠点／SciREX センター／データ・情報基盤の構築／公募型研究開発プログラム、の

目的達成に向けた成果の創出状況や見込み

- 「主要 4 取組」について、成果の創出状況や見込はどうか。
  - それらについて、質・量ともに適切な指標を設定し、妥当な把握・分析がなされているか。上記の指標は、中期目標・中期計画（平成 28 年度策定）に照らして妥当か。（各拠点）
  - SciREX 事業全体の目的・成果創出に貢献しうる取組みが推進されているか。
  - 成果は、補助金等の終了後の自立につながりうるものか。
- 上記以外の、想定外の成果があったか
- 他の事業や制度では得られなかった固有の効果を、各拠点／SciREX センター／データ・情報基盤の構築／公募型研究開発プログラムに関与した学生、中間人材、研究者をはじめとする関係者にもたらしたか。

４．改善提案等（自己評価報告書への記載事項）

- 各拠点／SciREX センター／データ・情報基盤の構築／公募型研究開発プログラムの運営について改善すべき点は何か。
- 事業終了までに、文部科学省として整備・拡充すべき機能は何か。

なお、「主要 4 取組」において、評価（自己評価報告書への記載）が必須、若しくは推奨される活動や対象については資料⑤「評価が必須若しくは推奨される対象及び活動」参照。

また、主要４取組の重み付けについては、各拠点若しくは事業等の特色を考慮し、自己評価の主体が自ら判断するものとする。

評価が必須若しくは推奨される対象及び活動

（ロジックモデルにおける「主要4取組」毎の整理）

	ネットワーキング			共進化		人材育成			研究成果・基盤		
	研究者	行政官	その他	共進化実現PJ	共進化実現PJ以外	学生	行政官	若手研究者等	重点課題PJ	研究一般	データ基盤
基盤的研究・人材育成拠点（５拠点6大学）	◎	○	○	※	○	◎		◎	◎	○	
中核的拠点機能（SciREXセンター）	◎	◎	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	
公募型研究開発プログラム（RISTEX）	○				○			○		◎	
データ・情報基盤の構築（NISTEP）	○	○			○			○		○	◎

◎：必須項目　○：推奨項目　※：実施機関は必須の項目